

総合教育棟（通称・DRI 棟）、開所式

幸町キャンパス内に整備していた総合教育棟が今年5月に完成し7月16日に開所式が行われました。開所式には関係者約120名が出席。寛学長の挨拶に続いて、文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部長の平井明成様、香川県知事の浜田恵造様から祝辞をいただきました。基調講演では吉田秀典副学長と教育基盤センター創造教育推進部門の石井知彦部門長がそれぞれ「DRI教育とは」「DRIイノベーター養成プログラム」と題して講演。その後、「経済政策」「ロジカル思考演習」「まちづくり論」をテーマに行われた3つの授業と施設の見学が実施されました。

総合教育棟（通称：DRI 棟）は大学改革の目標

である新たな価値創造のためのDRI教育を推進する拠点施設となります。

「DRI教育」とは地域活性化の中核的拠点としての機能を持つ大学には、地域社会における課題の解決や新たな価値を創造できる人材の育成が求められています。人びとが望むことを達成するためのイノベーションを創出する「デザイン思考(D)」、レジリエンスやセキュリティに資する「リスクマネジメント(R)」、専門分野を超えて数理・データ分析を行う「インフォマティクス(I)」に係る教育が期待されています。上記の3つを統合した能力の育成を、香川大学では「DRI教育」と呼んでいます。

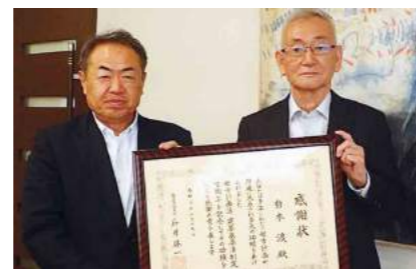


除幕式（左から今井田理事、寛学長、平井部長、浜田知事）

白木渡副学長が都市計画法・建築基準法制定100周年記念 国土交通大臣表彰を受賞

都市計画法・建築基準法制定100周年記念国土大臣表彰は、2019年が都市計画法及び市街地建築物法の制定から100年を記念する行事の一環として行われ、都市計画及び建築行政の推進等に功績のあった257名の個人と36の団体が表彰を受けました。白木副学長は、信頼性工学、防災工学、危機管理学を専門と

しており、構造物や情報システムの信頼性設計、行政機関や企業等の事業継続計画(BCP)の策定支援システムの開発に関する研究を行っています。これらの専門性を活かして長年にわたり香川県都市計画審議会会長を務め、香川県の都市計画の決定・推進に関して顕著な功績を上げています。

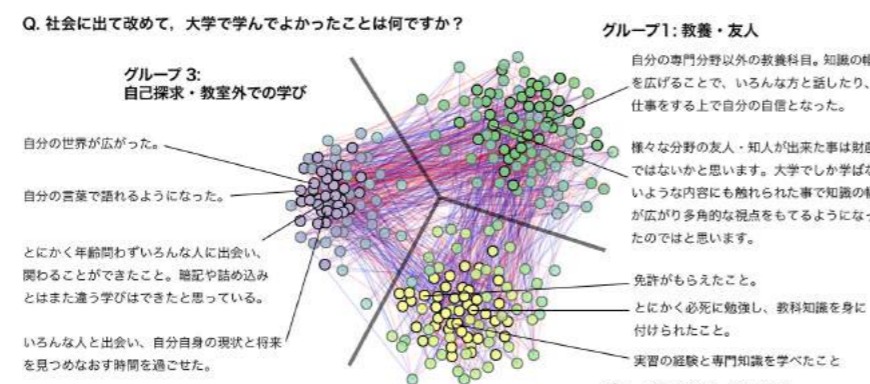


寛学長(左)と白木副学長(右)

ネットワーク科学を活用した自由記述回答文の統計分類法を開発 「大学で学んで良かったことはなんですか？」人々の意見にグループを見つける

国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センターの川本達郎研究員と、香川大学教育学部青木高明准教授の研究チームが、自由記述式アンケートの方法「投票クラスタリング」を開発しました("Democratic classification of free-format survey responses with a network-based framework", Nature Machine Intelligence, 322-327, 2019)。

従来のアンケート分析では、自由記述回答の分類を分析者がすべて読んで人手で処理する必要があり、大規模な実施が困難でした。研究チームは回答者本人達に記述回答に加え、自分の意見と他人の意見との「似ている」「似ていない」の関係性を判断して



もらうことで、機械学習による分類を実現。香川大学教育学部卒業生アンケート等において、提案法の有効性を示しました。この手法によって、「どうして大学に進学したの

ですか?」、「当社の商品に求めることはなんですか?」といった質問を1万人以上の人々に投げかけ、効率的に分析することが可能となります。

香川大学では今後、全学でデザイン思考教育を取り入れていきます。ところで「デザイン」とは何でしょう? そんな疑問に、創造工学部創造工学科造形・メディアデザインコース12人の先生方に、「デザイン」と「お一人ずつ決められたテーマ」をかけて、語っていただきました。(10回目/12シリーズ)

DESIGN× 専門力×地域活動

創造工学部創造工学科造形・メディアデザインコース教授

倉石文雄



私たちは、科学が人を動物から人に進化させ、進んだ文明こそが人に幸せをもたらすと信じてきた。しかし、その固定観念を押し進めた結果は、人は自然の一部であることを忘れ、無計画に消費し破壊した歴史であった。それは見方を変えれば、自己を破壊してきた歴史であった。その結果を受けて私たちは、あらゆる要素が有機的につながり循環しながら、その一部として生きねばならないことを知り、分離分断の流れに終止符をうながす方向性を見出すという課題を課された。

産業革命前の共同体は農業共同体であり、基本的に自給自足体制を保持していた。産業革命以後、生産労働と消費活動は分離され、職場空間と生活空間が分離され、家庭は消費活動空間に特化した。市場経済、貨幣経済は拡大し共同体的な生活形態とは決別、都市は無秩序に作られ、環境問題や人口問題を引き起こした。生産労働から切り離された家庭内労働は社会から認知されにくく、しかも過重な責任を持った孤立した場となった。生産労働の世界に特化したものは、馬車馬のように働き、動けなくなれば、無下に社会から退けられるものになった。そもそも、その元を辿れば、狩猟採集をやめ、効率よく自分達にだけ都合の良い特定種類の生物を大量生産始めたことが、実質的に自然と人間との袂を分けたとも言える。とは言え、私達はもう原始の時代には帰れない。しかし、

過去を食い尽くして後世に引き渡すことは無責任である。これまで私達を浸食してきた、自然と人との関係に对立軸を作ることで社会を説明してきた哲学が破綻したことは歴史が証明している。

人が純粋に自己を表現するという行為は、産業革命や農耕や宗教の発祥より、はるかに人類の発祥に近いところにあるものだ。よって現在私達が目にしているさまざまな目障りな心配事などは包括できるものだと思う。さらに現代美術は、政治的なメッセージを必要とする意見は多くあるが、大きなイベントほど、資本主義に染まり、その恩恵を色濃く受けている。前記した個人的信条との矛盾は無視できない。アートは万能では無い。しかし現代という時代の海をくぐったうえで、さまざまな要素を超越した立場に立つべきである。

国策によって地方は疲弊した。もう国の存在など問題にしないで良い。頼る必要もない。第一に私達が求めるものは、誰が仕組んだのかもわからない行き先知れない流行や、ミーハーな視点から脱却し、自ら確固たる専門力を形成しなくては行けない。それらに必要な努力を積み上げ、自分が自分を信じるに足る自分を形成することだ。次にそれを軸として地域住民と粘り強くコミュニケーションを重ねること、あたかも日本刀を鍛造するかのように自らを叩き締めるのである。成功や失敗の経験を繰り返していくこと、それが堅牢で、柔軟な人間力を生み出すのである。そして、それこそが、これからの地域デザイン形成の第一歩となるのである。

私たちはもう原始の世界に帰れないといった。しかし、表現の世界では、それも悪くないと思う。私達の中に潜む、表現することの本当の力強さを引き出すことになればと考えている。その力こそが循環の源となるのである。

VOICE

全ては子どもたちに夢と希望を与えられる存在であるために



教育学研究科
修士課程2年
佐藤文史

中学生までスポーツに夢中だった佐藤さん。高校で出会った先生の一言で音楽の道へ。猛勉強の末、国立音楽大学へ入学。卒業後は香川県に戻り、音楽の教員として中学校・特別支援学校・高等学校などで音楽の素晴らしさ、歌うことの楽しさを伝えてきました。また、テノール歌手としても活動中。昨年度から香川大学の教育学研究科に在籍し、特別支援教育について研究に励んでいます。

幼い頃からスポーツに励んでいた私が、音楽と出会ったのは、津田高校へ入学した直後でした。音楽の授業で校歌を歌っている私の声を聴いた当時の音楽教諭から“いい声をしている！音楽家を目指さないか”と声をかけられました。その一言で私の人生はスポーツから音楽へ方向転換し、音楽大学へ進学するための勉強がスタートしました。楽譜はもちろん、ピアノに触るのも初めてでしたが、猛勉強の末、音楽で有名な「国立音楽大学」への入学を果たしました。在学中には四国出身の音大生で構成した音楽グループ「カンパネリ」を結成するなど、精力的に活動していました。卒業後は、故郷の香川県で音楽教員として働き、音楽活動も行なっています。

音楽活動を行うのは、身近にいる教師が舞台上に立つて活動する姿を見せたいからです。そして、子どもたちに夢や希望を与えられる存在になるのではないかと考えたからです。生徒と教員は家族と過ごすよりも長い時間を一緒に過ごします。だからこそ教員は生徒にとって影響力の強い存在であることは間違いありません。そして、生徒へ夢や希望を与えられるのも私たち教員だと思っています。し

かし、歌が歌えただけでは、生徒たちをしっかり応援できるわけではありません。もちろん教員としての技量も高めていく必要があります。そこで私は香川大学の教育学研究科への進学を決めました。音楽教員がどうして特別支援教育の研究をしているのか、よく質問をされます。そのとき私は「全ての子どもたちが持っている力を発揮させてあげたいから」と答えています。世の中には周りに誤解されやすい子、生きにくさを感じている子がいます。そんな子どもたちが自分の価値を見出し、社会での役割を感じられるような指導ができる教員になりたいと思っています。私たち教員や周りの大人が子どもの成長の障害にならないように多様性を受け入れ、子どもの個性や才能を伸ばしてあげられるような社会をつくらなければなりません。それには特別支援教育の知識や在り方の理解が必要だと思います。香川大学では特別支援教育の最前線で活躍されている教授陣から指導を受けられ、自分自身の知識、技量を高めることができている。

これまでに述べた内容を子どもたちにわかりやすく伝えるように歌詞にして曲も作ってい



地元さぬき市でCDデビューを記念したリサイタルを開催。これまで応援していただいた地元の人たちに感謝を込めて、日本歌曲やイタリアオペラリアなどを披露した。

ます。曲名は「Happy Orange～太陽の下の君と僕～」です。曲中に出てくる「太陽」は毎日私たちの前に現れ、進む道を照らしてくれています。あなたにとって太陽は誰ですか。人は誰と出会い、どんな時間を共に過ごすかで人生が変わってきます。変わっていく世界

の中で大切にしたい“思い”を歌詞にしました。それは、人と出会い、人を信じ、人を愛し、そして感謝すること、とっても大切にしたいという思いです。この曲は“マイバラード”の作曲者である松井孝夫先生の編曲によって合唱曲にもなっています。いつか小・中学校



中学校で行った芸術鑑賞会。クラシック音楽に親しんでもらう。



新元号「令和」イベントで、子どもたちへ歌の贈り物。



若井教授の音楽レッスン。

の教科書に載ることを夢に、今後も私の思いがたくさんの子どもや大人に伝わることを願って、これからも自分自身の思いを伝えていこうと思います。

教育学研究科・修士課程2年 佐藤文史

EVENT



7/6
SHIP'S CAT+kame3 祝祭 おいでまい高松丸亀町商店街 オープンセレモニーに参加
除幕後は島唄PJのSHYさんが歌を披露し、経済学部3年の平田さんから学生イベントの紹介を兼ねた挨拶がありました。期間中、学生によるワークショップやアートイベントが開かれます。



7/19-9/14
博物館 第23回企画展「行ってみよう！香川の自然」
香川県には深い山も広大な森林もありますが瀬戸内海沿岸特有の独特な自然が残されています。「香川の自然ガイドマップ(香川県作成)」に沿って地形のなりたちや生物を標本やパネルなどで紹介。



創立70周年記念動画制作中
今年、香川大学は創立70周年を迎えます。特色ある教育・研究情報や、その他たくさんの魅力を紹介するために記念動画の制作をスタートしています。各学部へ伺い講義風景などを撮影中です。ドローンを使った映像もお楽しみに。

from International Office



ちきゅう見聞録



イタリア

経済学部地域社会システム学科
橋本夏帆
2018年6月から2019年2月
トビタテ！留学JAPAN 全国コース第8期生



トリノでイタリア語を勉強しながら、スローフードについて学びました。

イタリア語は初級クラスで1日4時間週5日、文法や会話を学習しました。会話授業では国の文化や社会の問題について、みんなが自分の意見をしっかりと主張することに少し圧倒されました。



イタリアでは農家民宿が盛んに行われています。私は2週間、トスカナの農家民宿で食教育の研修に参加。子供たちが楽しみながら、料理を作ってくれる家族や生産者への感謝の気持ちを育むワークショップやツアーが行われました。



各地域で豊かな食文化があります。私が滞在したピエモンテ州の郷土料理には、日本でもなじみ深いパニーニやカウダやバナコッタがあります。またタルタル(生肉)もよく食べます！トリュフや赤ワイン(パローロ)、チョコレートも有名です。

read more

